

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和6年度 第1回佐渡市デジタル活用推進検討懇談会
開催日時	令和6年7月31日(水) 10:00~12:00
場所	佐渡市役所本庁舎2階 大会議室
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 CIOあいさつ</li> <li>3 委員自己紹介及び事務局紹介</li> <li>4 座長の互選</li> <li>5 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和6年度のスケジュール(案)について</li> <li>2) 「佐渡市デジタル活用計画(案)」の認識合わせ</li> <li>3) その他</li> </ol> </li> <li>6 閉会</li> </ol>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	«デジタル化推進検討懇談委員» (9名) «市役所» (5名) ・佐渡市副市長/CIO 鬼澤 佳弘 ・佐渡市総務部長 中川 宏 ・佐渡市総務部総務課デジタル政策主幹 中川 裕 総務課デジタル政策室長 椎 俊介 総務課デジタル政策室デジタル推進係主事 齋藤 凌
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	なし

会議の概要（発言の要旨）

発言者	議題・発言・結果等
鬼澤副市長	<p>1 開会 2 CIOあいさつ (あいさつ)</p>
椎室長	<p>3 委員自己紹介および事務局紹介 今年度は委員の改選の時期にあたるということで、公募で新たに2名の方に参加していただくこととなった。 また、昨年度まで委員を務めていただいたA委員については退任となり、総勢9名となる。 新たな委員も含め、委員の皆さまより自己紹介をお願いします。 (委員、事務局職員より自己紹介)</p>
椎室長	<p>4 座長の互選 通常であれば立候補を募るとい進め方が正しいと思うが、事務局としては昨年度までの座長と副座長の体制については非常にバランスがよく、円滑な形で議論ができたものと理解しており、引き続きお2方に同様の役をお願いしたいと考えているが、いかがか。(一同の承認を得る) それでは、引き続き座長はB委員、副座長はC委員にお願いすることとし、ここからの議事の進行については座長へお願いする。</p>
座長	<p>議事に入る前に、この懇談会がどのような役割を果たす会なのかについて新しいメンバーにも共有してから中身に入るべきと思う。 事務局よりご説明いただきたい。</p>
椎室長	<p>当懇談会の設置の趣旨について説明する。 設置は令和4年度になるが、当時は佐渡市にデジタル政策室が設置された直後ということで、佐渡市のデジタル活用に関する考え方や方針が不在の状態であった。 デジタル政策室の設置の目的については、「デジタル活用構想」の策定及びその実行計画の策定ということで、約2年間をかけて構想と計画（案）を練り上げてきた訳であるが、この中で懇談会よりご意見・ご提言を頂戴してきた。 今年度、間もなく計画が策定ということで、いよいよ計画の実行フェーズへ移っていくことになるが、これまでの懇談会の役割は「デジタル活用構想・計画」の策定について意見を言うことであった。 これからは、策定及び推進並びに見直しについて意見を言うことが趣旨となる。 もう少し具体的に言うと、これからPDCAサイクルに沿って計画を進めていくことになるが、3年間という中期的なサイクル及び各年度における四半期毎に進捗管理を行うこととしているが、市役所庁内における進捗状況について懇談会に共有しながら進捗管理を行っていく。 また、懇談会においてもテーマを絞り、特定の施策について担当課と懇談をしながら計画の解像度を上げるような取組ができないかということで、今年度は現課との懇談の場を設けることを想定している。 本日は、「デジタル活用計画」の各施策について細かく皆さまに共有させていただくが、正直なところ、内容については心もとない部分や、取組の全体像が見えないといった内容が含まれていることが事実である。</p>



	<p>ており、今時点に対応できていない。</p> <p>海外からの観光客に向けては専用アプリの活用を考えており、言語対応した災害情報を配信できるアプリがあるのでそちらを周知していくことができれば、海外の方にもそういった情報が配信できるようになる。</p>
D委員	<p>承知した。</p> <p>2点目は「佐渡島MaaSの検討及び導入」について、P.28のKPI④として「地区」が掲げられているが、ここでいう「地区」は旧市町村の単位か。</p>
椎室長	<p>旧市町村単位ではなく「エリア」と認識している。</p>
D委員	<p>承知した。</p>
座長	<p>他にあるか。</p>
副座長	<p>「災害関連情報集約・提供サービスの整備、運用」について、計画上では令和6年度より実行フェーズになっているが、集約の方法については触れられていない。</p> <p>その部分が最も難しいのではないかと思っているが、災害の種類とその集約方法というものを整理した表のようなものはあるのか。</p>
中川主幹	<p>市から発信する情報や、発信したいものの発信できていない情報を集約した表は手元にある。</p> <p>それを元にシステムを構築している。</p>
副座長	<p>そのシステムにはどのように情報を集約するのか。</p>
中川主幹	<p>まずは国から発信される情報については国から発信される仕組みがあるのでそこから集約をする。</p> <p>市から発信するものについては、今はバラバラに発信しているものがあるのでそれらを一元化するような仕組みを使おうとしている。</p> <p>民間事業者が発信する情報については、将来的に国が整備しようとしている連携基盤のようなものへ繋げていこうと今の時点では考えている。</p>
副座長	<p>バラバラに情報を持っているものを統合していくということが、計画上では令和6年度に「整備完了・運用開始」となっている。</p> <p>進捗はいかがか。</p>
中川主幹	<p>今まさに開発を進めている状況である。</p>
副座長	<p>承知した。</p>
	<p>2点目。</p> <p>「観光客向けアプリ『さどまる倶楽部』」と書かれているが、webストアにおけるレビュー点が2点前後である。</p> <p>以前は1点台だったので多少は改善されたことと思うが、2点台では人は見てくれない。</p> <p>このアプリを観光客の方がインストールしてくれると情報発信もし易くなると思うので重要である。</p> <p>「さどまる倶楽部」の会員数を増やすというKPIもあるので、今の課題点と把握、改善案のようなものを計画に盛り込んでいただければと思う。</p> <p>アプリの開発業者に向けても改善案を挙げていけないといけないと思うので、そこをまとめていただけたらと思う。</p> <p>先ほどお話にあったが、「MaaS」という言葉自体が一般的には分からないのではないかと考えていて、「佐渡版MaaSとは何ぞや」というところが「取組の概要」から抜けていると思う。</p> <p>そもそも市民は新聞等で実証実験を知る状態と思うので、そういった説明が必要と思う。</p> <p>「脱炭素社会に向けたごみ焼却に伴う CO2 排出量の見える化」について、「ごみ排出量見える化サイトのページビュー数（年間）」「CO2 排出量見える化サイトのページビュー数（年間）」が KPI</p>

<p>中川主幹</p>	<p>として設定されているが、令和 8 年度の KPI が 3,000 件とされている。</p> <p>このことから、令和 7 年度にはコンテンツとして整備がなされていなければならないが、具体的なコンテンツとして、「どのくらい削減しました」という情報でないとそもそもページを見てももらえないし価値がない。</p> <p>一方で、その内容の検討については、計画では令和 7 年度に「実現方法検討」とされているが、本来であれば令和 7 年度にはコンテンツを整備しなければならないので、実行フェーズからすると令和 6 年度には検討する必要がある。</p> <p>削減量として見える化するためにどのようにして検討していくのかについては分からないままであるが、時期的な部分は修正が必要ではないか。</p> <p>このほか「V2H」という言葉が一般的には分からないと思う。</p> <p>ごみの削減量等のデータについては市としてある程度持っているのだと推測するが、やはり発信できていないという課題があるので、それをどうやって市民の皆さまに発信していくのかという検討が必要と思っている。</p> <p>恐らく、最初からベストの形を実現することは難しいと思うので、順次改善・拡充していくような考え方がよいのではないかと考えている。</p>
<p>副座長</p>	<p>ごみの削減量については、具体的には前年度との比較ということになるのか。</p> <p>「昨年度と比較すると、市民の皆さまの努力でこれだけ削減できました」というものが毎年度見えていないと、KPI も達成できないのではないかとと思う。</p> <p>「この取組を島民が一丸となって取り組んだので、これだけ削減できました」「何をしたらいくら削減できた」というものが見えていないとコンテンツとしては不十分ではないかという気がしている。</p> <p>例えば、「レジ袋ゼロ運動」について、「佐渡市として啓蒙活動をした結果〇%のごみを削減できた」、あるいは「ごみ拾いやごみの分別をした結果、どれだけの量が削減できた」というものが見えないとコンテンツとしては無価値に近いと思う。</p>
<p>椎室長</p>	<p>事務所の所管については生活環境課になるが、データの整理については既にスタートしているとの報告は受けている。</p> <p>ただし、どのような見せ方にするのかについては実現方法も含めて考えなければならない。</p>
<p>座長</p>	<p>このような業務がどんどん増えていっているような気がしているが、本当にやらなければならないことなのかとっていて、例えば「CO2 排出量の見える化」は何か必要性があって計画に搭載しているのか、それとも国から求められているであるとか、あるいは TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の地域版のように情報の開示が求められているためにやらなければならないのか、どちらなのか。</p> <p>ひとえに「大変だな」と思う。</p>
<p>中川主幹</p>	<p>国から求められている訳ではないが、脱炭素を目指そうとするネイチャーポジティブや、脱炭素先行地域を目指す佐渡市として総合計画に掲げる理念を実現していくためには、市民の参画が必要ではないかということで、啓蒙のための手段として挙げている。</p>
<p>椎室長</p>	<p>その部分を見る化することによって市民意識の高まりが期待できるであろうという考え方である。</p> <p>極端な例だが、「すべてのごみステーションに計量器を設置できないか」というお話もあった中で、デジタル技術を活用して実現できる手段がこの取組である。</p>
<p>座長</p>	<p>実施しようとするとかかなり大変だと思う。</p> <p>実施することによって、例えば「市民の行動がこういう風になっていくから、コストとエフォートを要しても実施したい」というものなのか気になった。</p> <p>それから、鎌倉市で導入している地域通貨「まちのコイン」のシステムの中にも、例えば小さなアクション</p>

E委員	<p>ンみたいなのが、SDGsや環境といった観点からどういう意味を持つのかということを見える化する機能が搭載されているので、既存の取組事例や参考になるものがあつたら活用してもよいと思う。</p> <p>取組としては非常によいことと思うが、これを市民の方が見た時に興味を示すのかは疑問である。</p> <p>ごみの量やCO2をどれだけ削減したのか、そのサイトを見に行くのかについて気になっていて、生活環境課が所管とのことでごみの削減量ということになっているのだと思うが、市内全体のカーボンニュートラルみたいなものの取組の1つとしてこういう指標が見えてくる方がよいのではないかとと思う。</p> <p>例えば、再生可能エネルギーの発電量や森林等のCO2の貯蔵量や吸収量、家庭で取り入れられるような太陽光発電も含めて、どれだけそういうエネルギーが再生されている中での指標の1つという、全体が見える見せ方をされた方がよいのではないかと感じる。</p> <p>市内全体の再生エネルギー率や吸収量が見えた中で、全体目標として「10～20年後にこういう目標を目指そう」というやり方が市民に興味も示せると思うし、市民も「自分ができることは何だろう」という意識を持つようになるのではないかと思ったところである。</p>
副座長	<p>今のお話を聞いて、確かに「CO2を削減しましょうね」と言ったところで周囲の皆さんが興味を持つかという非常に難しいと思うし、温暖化によって佐渡が南国のようになればよいと思うような人もいるのかもしれない。</p> <p>そこで1つ気になったのが、カーボンクレジットには取り組まないのかということである。</p> <p>既に柏崎市ガス水道局と第四北越銀行で取引があるようであるが、お話を聞いてみるのも手段ではないか。</p>
中川主幹	<p>カーボンクレジットについては、議論はしているが具体的な動きはないという状況である。</p> <p>計画まで落とし込めていない実態がある。</p>
座長	<p>「共創の場形成支援プロジェクト」という国の大きな事業で、東京大学に「Co-JUNKANプロジェクト」という研究拠点があり、種子島や佐渡市など色々な地域に入っているが、そういう研究プロジェクトとタッグを組んで研究として取り組んでもらうという手段もあるのかなと思う。</p> <p>テーマについてもゼロカーボンを目指す内容だったと思う。</p> <p>カーボンクレジット系の研究をやりたい研究者は恐らくたくさんいると思うので、そういうところに投げてみるのも面白いかもしれないと思う。</p>
副座長	<p>カーボンクレジットのシステム自体はもう既に仕組みがあるので利用するだけである。</p> <p>ただ、その計算方法等恐らく非常に難しく労力を要すると思うので、今ほど座長がおっしゃったように研究チームと一緒に算定方法をどのようにして簡略化するのかについて検討するのもよいと思う。</p> <p>議論はしているがやらないという具体的な理由について、「佐渡市はやりません」というのならそれはそれでよいが、やらない理由についてはしっかりとした説明が必要ではないか。</p>
E委員	<p>この取組について総合政策課へもご紹介させていただいている。</p> <p>検討はしており、今は情報を収集中で色々な方からお話を聞いている状況である。</p> <p>ただ、佐渡市における優先順位の問題と、実際にこの取組を開始してからお金に換えられるようになるまでに2～3年は要することとなり、専門家が調査するとなるとドローンを使った調査もあつたり、森林に入る調査もあつたり、第三者機関にそれを認定してもらう必要もあつたりする。</p> <p>市場がまだそれほど成長していないため、購入先となる企業の調整なども必要で中長期の取組となる。</p>
座長	<p>カーボンクレジットはそもそも効果があるものなのか。</p>
副座長	<p>全体のCO2を削減する機能については、基本的にはあるものとされている。</p>

座長	<p>ただ、一般の方から見ると、枠の売買をしているだけでCO2の総量は変わらないように見えるかもしれない。</p> <p>全地球上的にはなかなか見えにくいところかと思うが、少なくとも自分たちが取り組んだごみの削減やCO2の削減の取組によって3年後には学校にゴールポストが寄贈されたというような形に変わってくると、「じゃあ、やりましょう」というような話に少しはなるのかなと思う。</p> <p>「新潟県版J-クレジット制度」については廃止するというような話もしているらしいが、どういう人が活用しているのか、どういう人がそれを購入しているのか、そして誰がそれをマッチングさせているのかを学生が調査したところ、CO2を相殺したいという人よりも、「ふるさと納税」感覚で地域を応援したいから購入している人の方が多く、結果、相殺には使われていないという実態があった。</p> <p>デジタル活用のいち施策として「ごみ焼却に伴うCO2排出量の見える化」がノミネートしているが、本当はもっと大きなシステムの中で考えていかなくてはならないかもしれない。</p>
D委員	<p>そうすると、全体のデザイン化については部署ごとでは対応できないお話になるのかもしれない。</p> <p>そう思って質問してこなかったが、計画（案）の策定については、各課から挙がってきたものをデジタル政策室が取りまとめたものをお示しいただいているのか。</p>
椎室長	<p>基本的にはそのとおりである。</p>
D委員	<p>デジタル政策室に言うことではないかもしれないが、「令和6年度には生ごみコンポストの事業を開始します」とあるが、コンポストの事業については以前も実施していた事業であり、個人的には反対したい思いである。</p> <p>コンポストを置けるようなお宅であればよいが、管理が大変である。</p> <p>特にこの季節は生ごみを入れたら虫が湧くばかりで、糠を入れたり籾殻を入れたり土を入れたり、混ぜて発酵を促す必要もあり、ただ置いてごみを捨てるだけという訳にはいかない。</p> <p>そこにお金を使うのであれば、「健幸ばいんと」などと連携して、日々の食事から廃棄物を出さないような啓発活動にお金を使った方がよいと思う。</p> <p>コンポストの設置に補助を出すと言っているが、アパートで置けない人もいるし、庭がなくて置けない人もいるかもしれない。</p> <p>廃棄物を減らすための啓発活動は既に行われているが、そこをもっと後押しするようなことにお金を使った方がよいと考えており、この事業には個人的には反対である。</p> <p>本来はパブリックコメントなどで意見・提言する内容であり、この場で申し上げることは適切でないと思いつながら発言させていただいた。</p>
椎室長	<p>今のようなご意見について、現課との懇談の場で議論いただくことも考えられるのではないかと。</p> <p>本日のここまでの議論の内容でいえば、総合政策課と生活環境課とお話の場を設定することは有用かもしれない。</p>
座長	<p>観光施設など大規模な有機廃棄物を出しているところを回収して活用していくというようなお話ではないのか。</p>
椎室長	<p>各家庭向けである。</p>
D委員	<p>大きな施設に生ごみ処理機を導入した方がよいと思う。</p> <p>「なぜまたコンポストなのか？」という思いである。</p>
副座長	<p>まとめるようになるが、何ができて何が駄目なのか、どうしてもリソースは有限なので、その中でなぜそれを選択するのかについて、行政は「これをします」という説明はするが、「これはしません」という説明はしない。</p> <p>例えば、コンポストをする理由に付随して、そのほかの手段をしない理由の説明があるともう少し具</p>

<p>座長</p>	<p>体的な議論ができると思う。</p> <p>時間が限られており、すべての基本目標について認識合わせをすることは難しいと思われるので、いくつかピックアップしていただく形で進める形はいいか。</p> <p>1個1個の細かな施策についての意見を出していくものなのか、もう少し全体的な話をした方がよいのか。</p> <p>例えば、この計画（案）は行政の自治体DXという部分と、地域DXという部分が区別されていないと思う。</p> <p>それから、基本目標に沿って色々なサービスを生み出していくために整えなくてはならない情報の基盤等があると思うが、その基盤が整えばその先の開発は市役所が担わなくても民間の力を活かしてビジネスとしてできるものがあると思う。</p> <p>なので、1個1個の施策が自治体DX的なものと地域DX的なものに区別できていないと思うので、もう少し整理されると意見が出しやすいのかなと思った。</p>
<p>副座長</p>	<p>座長のご意見に反対する訳ではないが、私はしっかりと整理がされていると感じている。</p> <p>ここまで整理されているからこのような議論ができるのであって、もっと抽象的な部分を議論することになると時間の無駄になる。</p> <p>全体的な問題として、「現在策定中です」というような施策が散見される状態であるので、そこは次回に仕切りなおすと割り切って、そうでないところに絞ってヒアリングしてはどうか。</p> <p>ちなみに今感じているのは、昨年度までの計良委員のように、私たちのように熟れたメンバーの意見より市民目線のご意見の方が非常に胸に刺さるという思いである。</p> <p>それをヒアリングすることは重要なことではないかと思う。</p>
<p>椎室長</p>	<p>それでは今のご指摘に従い、基本目標2、3は煮詰まっていない部分が多いことから本日の議論からは割愛し、先に基本目標4をお伝えしたい。</p> <p>また、基本目標5については行政内部のこととなるので、こちらも次回に回すこととしたいがいかがか。</p>
<p>座長 椎室長 齋藤主事</p>	<p>そのようにお願いします。</p> <p>それでは、基本目標4について齋藤より説明する。 (アジェンダP.78～97に沿って説明)</p>
<p>座長 F委員</p>	<p>基本目標4についてご意見・ご質問等あるか。</p> <p>P.101の「地域コミュニティ活性化基盤整備」について、回覧板や紙ベースの情報紙が結構流れ込んでくる。</p> <p>こうした基盤整理ができれば紙の削減にも繋がるのではないか。</p>
<p>椎室長</p>	<p>基盤の実現について、エリアを選定して実証実験を試みようとしたが、実際に住民の方とお話をしたところ、「若い家族がいる世帯はいいが、高齢者のみの世帯や高齢者の独居世帯にタブレットを配備したところで、誰が操作を教えるのか？使われないのではないか？」とのご意見があり、また、通信料の問題もあってすぐに実現することは難しい状況である。</p>
<p>F委員 D委員</p>	<p>承知した。</p> <p>私は高齢者をタブレットに誘導するのは無理と思っている。</p> <p>私自身、親もどれだけ言ってもスマホを使えないし、そこへ無理矢理タブレットを配布したところで無駄になるのではないかと考えている。</p> <p>たいへん申し訳ないが、タブレット等を使えない年齢層もシフトしていくので、そういう方には紙によるアナログ対応がありきである。</p> <p>そこは容認されていくべきで、「こうしなければならぬ」と一緒くたにするのではなく、認めてあげていた</p>



椎室長	<p>だきたい。</p> <p>そこは、デジタルとアナログと両立していかなければならないと思っている。</p> <p>国においても「誰1人取り残さないデジタル化」という言い方をしているが、高齢者も含め、すべてをデジタルにシフトするのではなく、旧来の方式も残しながらデジタル化を進めるものと私たちも理解している。</p> <p>時間が解決してくれる部分でもあると思うが、一方ではそこを課題視しているということも現実で、タブレットが難しいようであれば、それ以外の方法については引き続き考えていかなければならない。</p>
G委員	<p>このお話は防災の点でも同様で、能登半島地震の際には、携帯電話もスマートフォンも使用できず、避難所に行っても電気も通っておらず電波も通じていない、完全にアナログの世界であった。</p> <p>そうなることを考えたうえで防災計画や避難計画を作らなければならぬと思うので、基盤が使える時はよいが、最悪な状況の時にどうするのかというのは、やはり紙の手段を残しておくことであるとか、何かを残しておくことであるとか、きちんと整理しておかないと危険なのかなと思う。</p> <p>そして、高齢者をどう避難させるのか、どうやって迎えに行けばよいのかなど、高齢者もあちこち悪いとか痛いとかあると思うので、そういう人たちの対応をどうするのかということをしっかりと考えていくことが重要だと思う。</p>
副座長	<p>市長の言い方は、「紙をなくすためにタブレットを使用する」というようなニュアンスだったかと思うが、最初のきっかけは防災ラジオの更新費用が高額になることから、インターネットを使用すれば費用も抑えられるのではという考え方もあったと思う。</p>
中川主幹 副座長	<p>加えて、色々な活用方法が考えられるという点もある。</p> <p>2つ理由があって、防災ラジオを使い続けることには財政的にも限界があることから、タブレットを導入したら費用を抑えられるということと、デジタル化にも寄与できるというところの説明をもう少し市民にも分かりやすくできるようにした方がよいのではないかなと思う。</p> <p>ちなみに、防災ラジオの更新費用については億単位だったかと思うが、それが数年に1度必要ということである。</p>
座長 中川主幹	<p>その議論は結論に至ったのか。</p> <p>まだ結論には至っていない。</p> <p>タブレットで試算してみるとやはり通信費用が必要になってくるので、そこは課題として残っている。</p> <p>防災の観点のみでなく、色々な活用をしていくことで費用対効果を広げるようなことは検討しているが、なかなかうまく進められていない状況である。</p>
F委員 中川主幹	<p>画面付きの<a href="#">Google Home</a>のような形のものがよいのではないかな。</p> <p>タブレットとしては画面付きのものを想定している。</p>
G委員	<p>病院と繋がるような機能があると皆さん利用するのではないかな。</p>
F委員 中川主幹	<p>簡単な操作でできればよいと思う。</p> <p>タブレットは色々な用途に使えるのではなく、ある程度ボタンを簡略化し、限定的な使い方に絞ることでも高齢者でも迷わずに操作しやすいものを考えていた。</p>
H委員 中川主幹	<p>喋るとおりに動いてくれるのがいちばんありがたいのではないかな。</p> <p>おっしゃるとおりである。</p>
座長	<p>この基本目標について、ほかにご意見・ご質問等あるか。</p>
H委員	<p>先ほどのLINEの多言語化対応の話になるが、LINEに「翻訳」という機能があるので、全部が全部翻訳される訳ではないが、ある程度できるのではないかなと思う。</p> <p>それから、すべてをデジタルへ移行すべきではないという意見もあったが、そういう意味ではテレビは</p>

G委員	<p>非常によい媒体なので、しばらくはテレビの活用ということも考えられると思う。</p> <p>困るのは、ほとんどのテレビがデジタル放送に対応しているのに、地域の集会施設にアナログテレビが残っていることである。</p> <p>これについて、市は各地域が対応すべきこととして認識しているようであるが、避難所になっている施設もあるはずである。</p> <p>もう1度掘り起こしというか、しっかり整理してからデジタルへの移行を考えるべきではないか。</p> <p>佐渡市の将来を見ていると1つ1つ素晴らしくて、難しい言い方をするが、「データを活用すること」が佐渡市の1つの将来かと思っている。</p> <p>デジタルのツールを導入するということは、ツールから得られる皆さんの日頃の行動だとか、環境の情報だとか、色々なものをデータとして取得することができるため、これを佐渡市の持続性ある未来を作るのに役立てようということである。</p> <p>今は恐らくその素晴らしい施策が1個1個の取組の中でデータを取得して、その中で活用していくことを謳っていると思うが、例えば、食料とごみと宿泊施設と、色々な分野間でデータを連携することで、違う取組や新しいイノベーションが起きるような取組に変わっていくのだろうと、以前から県が提言しているデータ連携基盤がこれから最も重要になっていく。</p> <p>一方、県でも騒がれているが、取得するデータはIOTと呼ばれているセンサーであるとか、スマートフォンであるとか、色々なものからデータを取得したり、取得したデータを基盤の中に取り込んだりしていく訳であるが、最も恐れるのはサイバーセキュリティである。</p> <p>我々の生活が、データを活用したデジタルの中に置かれていくので、やはりサイバーセキュリティに非常に力を注がなくてはならないということが大きな課題として出てきている。</p> <p>2つ目の課題は、県が云々でなく、人工知能（AI）を使える人口をどんどん増やさなければならないということが叫ばれており、そもそもこれがないとデータを活用することが難しいということもあり、例えば、新潟県の地場企業の様々な課題について、地場企業のみでなく、その市場性に鑑みてももっとオープンにしてもよいのではないかとこの考え方があって、ネットワークが繋がっているの、協業するパートナーは県内のみならず県外にももっと広げてよいのではないかとこのことで、方法論は別として、データ活用を図るうえで、サイバーセキュリティとAIについてはデジタル変革の中で大きなテーマとして持っていなければならないということを、県の状況も踏まえてお伝えしておきたい。</p>
座長 椎室長	<p>セキュリティについては基本目標5に含まれているのか。</p> <p>特に触れてはいない。</p> <p>佐渡市としてセキュリティポリシーを改定したり、色々な実施手順を遵守したり、監査体制を作るといったことは求められている。</p> <p>現状、非常に高いハードルではあるが庁内において取り組もうとしているところである。</p>
G委員	<p>最近、生成AIが登場したということもあって、誰しもがデータ分析をするということについてハードルが下がっている。</p> <p>そうした時に、あまり生成AIに詳しくない人が生成AIをどんどん使う、生成AIと知らず様々な回答を導き出してくれるアプリケーションの1つとして使うということが増加していく中で、サイバーセキュリティやセキュリティガバナンスをどのようにしていくのかということを考えていかなければならない潮目に来ている。</p> <p>それがまさに今年あたりということをおし上げておく。</p>
椎室長	<p>佐渡市は今、その麓のあたりようやく辿り着いたという状態かと思うが、7月に庁内向けにAIを活用するための指針というものを作成して展開したところである。</p> <p>様々な活用方法のほか、「AIは平気で嘘をつくもの」というような認識を持ってもらえるような内容を</p>

H委員 椎室長	盛り込んでいる。 盗作の恐れといったこともあり、そうした懸念に付随する裏付け作業というものが必要になってくる。 おっしゃるとおりである。
G委員	当計画についても、一般的には難解な用語がたくさん出てくるため、それらの用語解説は生成AIを用いて作成してみたところである。 そうすると、今度は生成された内容が正しいのかをチェックする作業が発生する訳である。 「この用語解説は生成AIを用いて作成しています」と注意書きに加えておくのも手段である。 重要なことは、そうした作業を手作業で行くと数日を要してしまうところを一瞬で解決してくれることである。 その内容が正確か否かについては、見る側が注意書きを踏まえて話半分に理解し、怪しいと感じたら自ら調べることである。
副座長	ただし、その世界にいる人であればそういった理解ができるが、そうでない人については注意が必要になるが、「生成AIが正しいのか」という議論をしていても新しいことにはまったく繋がっていかないので、そこはさじ加減が必要かなと思う。 P.113には「デジタル人材育成・確保計画」について記載があるが、職員のセキュリティ対策への認識についてはかなり甘いのが事実で、例えば、そもそもセキュリティサポートの終了している言語で資料を作成しているといったようなことがあっても、行政の職員がそのことに気づかないという実態がある。
座長 中川主幹 椎室長	分からないものについては仕方がないかもしれないが、そこは勉強するしかない。 よって、「デジタル人材育成」という中に、セキュリティとAIの活用という部分については盛り込んでいただけるとよいのかなと思うし、これからいくらでも調整はできると思う。
中川主幹	そのあたりを担う専門部署は市役所内にはないのか。 デジタル政策室である。 デジタル政策室にはデジタル推進係と情報管理係があるが、セキュリティ関係については情報管理係が担っている。
副座長	民間企業であれば専門部署を作る必要はあると思うが、行政ではそういった意識が甘いのかもせず、専門部署すら作ることができない。 そういうところから変えていく必要があるのかもしれない。
座長	普通の民間企業においても専門人材がいけないということはあって、しかし、誰かが勉強して何とか専門職として機能しているので、佐渡市についても誰か1人は本当の専門家が必要である。 専門部署については作り上げるしかないと思う。
H委員	大学についても、個々の教員に対応を任せてしまうと危険なことがたくさんあるので、要所要所でそういった部分をチェックする人たちがいて成り立っている。 なかなかそれができない状況で、県の方へ丸投げで、そこからセキュアな形で無害化されたファイルを受け取ることはできないでいる。
副座長	すべて丸投げなので、「自分のところを守る」という考え方はなく、私どもは小さなISPではあるがサイバー攻撃というものは相当数あり、それを食い止める作業はデジタルというより土方の作業であり、1個1個潰していくというやり方をしているので、それを市役所にやれと言っても、ツールというものがあつたとしても3年もすれば古くなってしまふという状況である。
座長	行政は予算を立ててからでないと対応できないという弱点があるので、早め早めの情報収集ということがどうしても必要になるし、そのためにも勉強は必要である。 たくさんのご意見をいただき感謝申し上げますが、既に時間を過ぎてしまっている。

<p>椎室長</p>	<p>基本目標についても3つほど残してしまっただが、お気づきの点があればメール等でお寄せいただくということではいか。</p> <p>後ほど改めてご連絡させていただいたが、メール等でご意見をお寄せいただけたらと思う。</p> <p>先ほどは防災関連で、「アナログテレビが置きっぱなし」というようなご指摘もいただいているので、そういったご指摘等についても現課へ展開させていただきたいと思う。</p>
<p>椎室長</p>	<p>3) その他</p> <p>昨年度からお知らせさせていただいているが、「江戸時代の佐渡へタイムスリップ事業」が明日リリースとなる。</p> <p>既に市公式Youtubeチャンネルにてプロモーション動画を掲載させていただいているが、是非皆さまにもアカウント登録いただき、体験いただきたいと思う。</p> <p>今回は坑道内部の様子の公開となるが、京町エリア、佐渡奉行所エリアと順次公開していくので、皆さまからもPRや発信等いただけたらと思う。</p> <p>製作はどこかの企業へ委託したのか。</p> <p>こちらは企業版ふるさと納税を活用している。</p> <p>ほかにご意見・ご質問等あるか。</p> <p>なければ、副座長より閉会のあいさつをお願いします。</p>
<p>D委員 椎室長 座長</p>	<p>4 閉会</p> <p>本日は長時間議論いただき感謝申し上げます。</p> <p>皆さま、色々な委員を兼任されていることと思うが、現時点でのデジタル政策室の計画はよく練りこまれているのではないかと私は思っている。</p> <p>ただ、そうは言っても実行フェーズに入るので、進捗管理や方針の一部転換については、まずはやってみてから行われるべきと思う。</p> <p>それにあたっては、情報が市民の皆さまへ伝わることが非常に重要であると改めて思ったところである。</p> <p>特に、「やる理由」「やらない理由」というようなところも含めてである。</p> <p>とはいえ、すべての情報を市民の皆さまへお伝えすることは非常に難しいため、どういった情報をお伝えすべきかということについて、まさに当懇談会から指摘されたような部分について説明が不足しているという認識を持っていただき、今後の情報伝達に力を入れていただきたい。</p> <p>最後に、サイバーセキュリティやビッグデータの活用に向けてのAIなど、「本当のプロ」と一緒に取り組んでいくことが必要ではないかと感じており、佐渡市の企業を優先的に使うという観点も含めて、未来に向かって最善手を採り続けるための一助となるような懇談会になればと思う。</p> <p>引き続き、よろしくをお願いします。</p>
<p>副座長</p>	